



週報

2023. 5. 21

使徒信条

わたしは、天地の造り主、全能の父なる神を信じます。

わたしは、そのひとり子、わたしたちの主、イエス・キリストを信じます。主は聖霊によってやどり、処女マリアから生まれ、ポンティオ・ピラトのもとで苦しみを受け、十字架につけられ、死んで葬られ、陰府にくだり、三日目に死者のうちから復活し、天に昇って、全能の父なる神の右に座しておられます。そこから来て、生きている者と死んでいる者とを審かれます。

わたしは、聖霊を信じます。聖なる公同の教会、聖徒の交わり、罪の赦し、からだの復活、永遠のいのちを信じます。アーメン

主の祈り

天にまします我らの父よ、願わくは御名をあげさせたまえ。

御国をきたらせたまえ。

御心の天になるごとく、地にもなさせたまえ。

我らの日用の糧をきょうも与えたまえ。

我らに罪を犯す者を、我らが赦すごとく、

我らの罪をも赦したまえ。

我らを試みにあわせず、悪より救い出したまえ。

国とちからと栄とは、限りなく汝のものなればなり。アーメン

初めて礼拝に参加なさる方への御案内

- ・教会の礼拝は、信者だけのものではありません。どなたでも、いつでも参加できます。
- ・礼拝は、「見えない神と対面するとき」です。砕かれた自分を携えて礼拝に臨みましょう。
- ・礼拝では、イエス・キリストを証言する聖書を読み、その聖書を説き明かす説教が行なわれます。イエス・キリストの御言葉と生きる姿を通して、私たち自身の生きる道を尋ねましょう。
- ・礼拝では、讃美歌を歌い、祈ります。これらは神への信頼を表し、また神の恵みに応えて感謝を捧げるものです。
- ・礼拝では、自分自身をささげて神に従う献身のしるしとして、献金を捧げます。

今は、献身のしるしとして捧げる事は難しいと感じる方が、神への感謝のしるしとして捧げることもまた礼拝に相応しいことです。人の目や金額の大小を思わず、心そのままにお捧げ下さることは、神と人ともに仕えて生きる新しい歩みの第一歩となるはずです。

←礼拝ライブはフェイスブックから
週報はホームページにも掲載→

礼 拝 毎日曜 午前 10 : 10 より
 日曜学校 毎日曜 午前 9 : 30 より
 祈り会 毎水曜 午前 10 : 30 より
 午後 6 : 30 より (今週は 6 : 00 より)
 *キリスト教 Q&A, 教会の歴史講座など随時
 *牧師との面談を希望される方はご連絡下さい。

日本キリスト教会

札幌豊平教会

〒062-0906 札幌市豊平区豊平 6 条 3 丁目 5-15

送金には、郵便局から振替口座をご利用ください。振替：02790-7-9082
口座名義：日本キリスト教会札幌豊平教会

電話 090-8863-7316

新メール contactch@ccj-toyohira.church

新HP <https://ccj-toyohira.church>



2023年5月21日

No.21

復活後第7主日礼拝

司式 長老伊藤むつみ

招きの言葉：イザヤ45：23

●わたしは自分にかけて誓う。わたしの口から恵みの言葉が出されたならば、その言葉は決して取り消されない。わたしの前に、すべての膝はかがみ、すべての舌は誓いを立て、恵みの御業と力は主にある、とわたしに言う。

奏楽 川名祐紀子

讃美歌 21-26

聖書 創世記12：1~9 (旧p15)

ローマ4：13~25 (新p278)

祈り 説教 「信仰による約束」

傳英二 森林公園教会牧師

讃美歌 21-431

信仰告白 使徒信条 (裏面に)

献金 主の祈り (裏面に)

頌栄 21-24

祝祷

アーメン三唱

後奏 (聴いた御言葉と派遣されて行く者としての理想を覚えて、各自黙禱を)

—2023年2月5日総会にて決議—
«2023年度主題» 『他者のために、地域と共に』
聖書 申命記6：4~5
聖書 使徒言行録2：43-47

礼拝後 高校生以上の集い 各団体会合

今週の集会

- ・22日(月)10:00 絵手紙G
- ・24日(水)10:00 ご近所さんとの健康作りの会
10:30 祈り会 I /18:00 II (LINE参加可能)
- ・25日(木)10:00 弁当の仕込み、食材受け取り
9:30~11:00~ガンバルーン体操教室
(10:30~11:00 移動スーパー「とくし丸」来訪)
14:00 平和憲法を守る豊平区民の会事務局会議
- ・26日(金)9:00 弁当準備(11:30 路上, 12:00 札バブ・
聖公会にて, 12:30 豊平教会・薄野にて手渡)
- ・27日(土)11:00 金子信子埋骨式 (四教会共同墓地)

牧師の予定 (上記以外)

- ・25日(木)9:00 NPO 札幌市里親会総会
13:00 食材受け取り2件
13:30 弁当の仕込みに合流

次主日の予告 (2023年5月28日) 聖餐執行

礼拝 聖霊降臨日主日礼拝 (ライブ配信)
聖書 使徒言行録20：36~38 (新p255)
説教 「別れて、なお共に在る」
讃美歌 21-28, 353, 81, 27

司式：長老杉中一郎 奏楽：ハートマン純子
礼拝後 集合写真撮影 高校生以上の集い

前週の報告

- ・14日(日)礼拝出席31名, 子ども0, 幼児1,
礼拝献金 ¥21,156 高校生以上の集い：8名
- ・17日(水) 祈り会 I：7名/II：4名
- ・19日(金)とよひら食堂：364食(教会108, 札バブ110,
聖公60, 大通44, 薄野38, 配達4, ボラ17[0食])
- ・20日(土)夕張の医療を考える会：7名 (全体52名)

お知らせ

(報告) 20日(土)夕張の医療を考える会 夕張市
拠点複合施設りすた多目的ホールにて
第1部「家族の死と音楽~柳田邦夫著『犠牲』より~」
前沢政次さん (前夕張市立診療所長)

第2部「これからの医療に必要なもの」武蔵学さん (前天使大学学長・内科医師・当教会長老)

午前中に夕張伝道所渡辺輝夫牧師のご案内で夕張の歴史を学ぶフィールドワークを実施。北炭の迎賓館であった鹿鳴館跡・ゴミ処分場・夕張伝道所・古い鉱夫の墓地・夕張神社・石炭の大露頭を見た。昼食後、講演会場のセッティングと受付に携わる。武蔵長老の講演は、健康寿命の生き生きと生き抜くこと。納得と感謝のある最期を目指して生きることなど、ためになる楽しいお話を伺った。夕張の地域の課題に取り組む伝道所との具体的連携の一つの形が見えた講演会であった。

- *次主日28日礼拝後、集合写真を撮影します。
- *6月5日(月)18:30~第41回政教分離を守る北海道集会 旭川市民文化会館大会議室にて
講演『憲法というヴィジョン~政教分離原則から照らし出すこと』斎藤小百さん(恵泉女子大学教授・憲法学) /この集会は北海道の諸教会が集い毎年「北海道護国神社例大祭」当日に合わせて行っているもの。北海道護国神社は「北の靖国神社」とも呼ばれ戦死者を神として祀るが、東京九段の靖国神社と違ってマスコミの注目度も低く憲法の政教分離原則を顧慮することなく、自衛官や行政の長など公人の公式参拝が堂々で行われている。同集会は、日本キリスト教会の諸先輩が核となって生まれ、毎年旭川を会場に開催。旭川市長への憲法順守要請を毎年行う。
- *10日(土)11:00 イースタリーコール練習
- *17日(土)10:00~11:30 札幌桑園教会献堂式
13:30~さっぽろ教会音楽祭(札幌バプテスト教会にて) 入場¥500

きょうの聖書

〈創世記 12 : 1~9〉

- 1 主はアブラムに言われた。
「あなたは生まれ故郷 父の家を離れて
わたしが示す地に行きなさい。
- 2 わたしはあなたを大いなる国民にし
あなたを祝福し、あなたの名を高める
祝福の源となるように。
- 3 あなたを祝福する人をわたしは祝福し
あなたを呪う者をわたしは呪う。
地上の氏族はすべて、あなたによって祝福に入る。」
- 4 アブラムは、主の言葉に従って旅立った。ロトも
共に行った。アブラムは、ハランを出発したとき
七十五歳であった。
- 5 アブラムは妻のサライ、甥のロトを連れ、蓄えた
財産をすべて携え、ハランで加わった人々と共に
カナン地方へ向かって出発し、カナン地方に入っ
た。
- 6 アブラムはその地を通り、シケムの聖所、モレの
檜の木まで来た。当時、その地方にはカナン人が
住んでいた。
- 7 主はアブラムに現れて、言われた。「あなたの子
孫にこの土地を与える。」 アブラムは、彼に現
れた主のために、そこに祭壇を築いた。
- 8 アブラムは、そこからベテルの東の山へ移り、西

にベテル、東にアイを望む所に天幕を張って、そ
こにも主のために祭壇を築き、主の御名を呼んだ。

9 アブラムは更に旅を続け、ネゲブ地方へ移った。

〈ローマ 4 : 13~25〉

- 13 神はアブラハムやその子孫に世界を受け継がせる
ことを約束されたが、その約束は、律法に基づい
てではなく、信仰による義に基づいてなされたの
です。
- 14 律法に頼る者が世界を受け継ぐのであれば、信仰
はもはや無意味であり、約束は廃止されたことにな
ります。
- 15 実に、律法は怒りを招くものであり、律法のない
ところには違犯もありません。
- 16 従って、信仰によってこそ世界を受け継ぐ者とな
るのです。恵みによって、アブラハムのすべての
子孫、つまり、単に律法に頼る者だけでなく、彼
の信仰に従う者も、確実に約束にあずかれるので
す。彼はわたしたちすべての父です。
- 17 「わたしはあなたを多くの民の父と定めた」と書
いてあるとおりです。死者に命を与え、存在して
いないもの呼び出して存在させる神を、アブラ
ハムは信じ、その御前でわたしたちの父となっ
たのです。
- 18 彼は希望するすべもなかったときに、なおも望み

を抱いて、信じ、「あなたの子孫はこのようにな
る」と言われていたとおりに、多くの民の父と
なりました。

- 19 そのころ彼は、およそ百歳になっていて、既に
分の体が衰えており、そして妻サラの体も子を
宿せないと知りながらも、その信仰が弱まりは
しませんでした。
- 20 彼は不信仰に陥って神の約束を疑うようなこと
はなく、むしろ信仰によって強められ、神を賛
美しました。
- 21 神は約束したことを実現させる力も、お持ちの
方だと、確信していたのです。
- 22 だからまた、それが彼の義と認められたわけ
です。
- 23 しかし、「それが彼の義と認められた」という言
葉は、アブラハムのためだけに記されているの
でなく、
- 24 わたしたちのためにも記されているのです。わ
たしたちの主イエスを死者の中から復活させた
方を信じれば、わたしたちも義と認められます。
- 25 イエスは、わたしたちの罪のために死に渡され、
わたしたちが義とされるために復活させられた
のです。